



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.133



10月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2021年10月1日

オリンピックと新たな都市の表情

副会長 大内 政男

異例づくめの東京オリンピック・パラリンピックは大きな混乱もなく幕を閉じた。この大会の評価が定まるには時間が必要であろうが、アスリートの活躍が世界に感動を与えたことは間違いない。海外のメディアもオペレーションを含め総じて好意的に報道したようである。また SNS で特に評価が高かったのは、選手村の食事、ボランティアや街中の人々の礼儀正しさとホスピタリティであった。オペレーションの質の高さ、食事やホスピタリティは日本を訪れる旅行者からこれまでも高く評価されてきたが、コロナ禍にあってもそれが発揮された意味は大きいと思う。

一方で 100 万人と想定された来日客はなく、彼らを感じ取るはずであった東京の新たな魅力を発信できなかったことは大いに残念である。1964 年のオリンピックと違い東京の変化は見えにくい各地で再開発が進み、駅などのバリアフリー化や街路の整備多言語のサインなど質的に向上した面は多々ある。また新たに建設された競技施設には全国から集められた国産木材が構造・内外装材として使われ、日本の都市・建築の新たな姿を提示している。多くの来日客はこれらの施設を見て、京都や奈良などの寺社仏閣数寄屋建築や町家、また漆器や曲げわっぱなどの工

芸・民芸品と合わせ、改めて日本人が木の使用に長け木の文化を育んできたことを認識できたと思う。これらの施設はオリンピックに限らず日本を訪れる旅行者の見るべき建築として継続的にアピールしていくべきと思う。

日本の都市と建築の近代化は鉄とコンクリートによってなされ都市景観を形成してきた。それは大いに評価すべきであるが、一方で高齢化が進み高度経済成長が叶わないで状況下では、新たな成熟社会に相応しい都市・建築の表情があって然るべきと思う。優しさや温もりを備えた「木」はその新たな表情の重要な要素となり、「木」の循環型経済は地球環境にやさしく地方創生にも結び付く。

2010 年に「公共建築物における木材利用推進法」が制定され、「木」による学校や庁舎など多くの魅力的な建築が各地に建設されてきた。本年 6 月にこの法律の対象は民間の建築物等にも拡げられ、建築基準法の改正と合わせて都市部でも今後国産木材を利用した大規模な建築物が建設されていく。

「木」が散り嵌られた 10 年 20 年後の新しい都市の表情が世界に類例のない日本独自の景観を生み出し大いなる観光地として世界のツーリストを魅了することを筆者は願っている。

技術委員会の活動状況とこれからの予定

技術委員会 副委員長 野出木貴夫

緊急事態が解除されたとは言えコロナ禍の終焉が中々見通せない状況ですが、技術委員会の各会は WEB 会議を活用する他に、それぞれ工夫を加えながら進められています。今年度も「ワーケーション」、「フェーズフリー」などのキーワードに新たに「ホスピタリティ」を加味しながら下記の様に活動を展開しています。

【ホテル都市分科会】: 木づかい推進チームでは、オリンピック選手村のビレッジプラザにおけるウッドリターンプロジェクトに注目し、協会内会員に広く利活用のアイデアを募るコンペを開催し、その提案を各地方自治体に発信していきたいと企画しました。会員相互の親睦・交流も兼ねており、皆様の積極的な参加をお願いします。一方、新 UD 客室研究では、昨年度の「客室ドアの自動化のススメ」を引き継ぎ、今年度は「引き戸形式」に挑戦中です。乞うご期待！

【旅館観光地分科会】: 昨年度、テクノロジーの利活用による宿泊施設のコンシェルジュ化を掲げ、「町じゅう旅館・町じゅうホテル」と名付けて浅草、京都で実証実験を行いました。今年度はこの座組による活動をさらに発展させ、スマートシティ研究会を立ち上げて自治体や地域 DMO、観光関連団体との協業のための活動を行い、さらに全国でこの活動の仲間を増やしていくようにまいります。

【観光交流空間のまちづくり研究会】:今年度も「トレンド探偵」の活動は休止し、観光やまちづくりに関連した協会内外の方を招いてのトークイベント「クロストーク」をWEBにて行っています。今年度第1回は「MICEの世界」を行い、第2回は「多拠点居住、いつもの場所がいくつもある」を予定しています。今後も交流と知見を広げる活動を行ってまいります。

【エコ・小委員会】:2030年/2050年のCO2排出の課題解決に向け、日本旅館協会の会員旅館から水光熱使用量データを集め、利用状況の把握と削減対策を発信することを検討しています。またエコ・小コンセプト&ガイドブックとデザインブックを作成し、宿泊業界と共有することを計画中です。9月にはエコ・小委員会の各専門家が参加してハイブリッド厨房の実証実験を行い、エネルギーのベストミックスを検証します。

【インテリア分科会】:コロナ禍での活動については参加委員での施設調査というわけにもいかずそれぞれが調査をしてそれを纏めるという方法としました。それでもなかなか自由に調査に行くという状況ではないため苦戦しています。それでも7月には松山萬翠荘・8月には菊池寛実記念・智美術館を調査いたしました。今後さらにそれぞれになります。調査活動を続けていく予定です。

【耐震研究会】:ホテル/旅館の耐震改修の促進について研究を進めています。耐震化助成金制度の調査、SDGsへの取り組み、BCPの推進のほか、近年増加している台風や洪水といった災害対策も今年度のテーマに加えしました。また感染症蔓延下における、分散避難施設としての宿泊施設の有用性が認識されはじめており、助成金制度なども始まっていることもあり、これらにも注視して活動を進めてまいります。

建築部会の活動状況とこれから

建築部会長 崎山 茂

中国発パンデミックから2年が経とうとしています。その環境下でも幾多の素晴らしい施設が開業しましたが、建築部会ではこれまでのような見学会を開催できていません。新たな施設も多くが五輪需要を期待していたものの無観客開催となった五輪の成果はどうだったのか、今後インバウンドは戻るのか、特に中国経済の失速はどう影響するのか、検証と備えが必要です。今後観光業の対象は大きく変わでしょう。新たな日本観光の魅力の発掘が必要です。

東京、特に湾岸部は五輪後に確かに変わったはずですが多くの方はそのレガシーを実感できていないようです。そうした視点から建築部会では水辺観光の研究を続けていきます。

設備部会の活動状況とこれからの予定

設備部会長 藤野 健治

設備部会では、これまでに計3回の幹事会をweb併用で開催し、新型コロナウイルス感染防止を念頭に「施設見学会報告を通しての関連情報提供」と「設備部会全体交流会の開催」について検討してきました。8月には三菱電機(株)情報技術総合研究所内のZEB(net Zero Energy Building)関連技術の実証棟「SUSTIE(サスティエ)」の見学を予定していましたが、緊急事態宣言で12月に延期となりました。また、設備部会全体交流会についてはweb併用にて来年2月に開催する予定で実現に向けた打合せを進めています。活動状況につきましては、今後も掲載等を利用して皆様に情報発信して行きたいと思っております。

インテリア部会の活動状況とこれからの予定

インテリア部会長 寺本 昌志

前年度同様、今年度の部会活動もコロナ禍の中で、慎重に進めなければならず、交流を前提とする当部会では活動の在り方に苦慮している状況です。

各グループとも、グループミーティングはWebにてコミュニケーションを取り、活動計画を練っています。またインテリア部会の運営については幹事会

において活動方針を検討しており、現時点までに6月と9月にWebにて二回開催致しました。

そんな中で、本年2月に予定していたセミナーグループのWebセミナーが一度は延期になりましたが、無事3月に行えたことは、こういった状況下の中で行う活動のモデルケースになったと思います。セミナーの内容はアニメツーリズムに関するもので、参加は280名に上りました。また宿泊施設見学グループでは見学実施に向け、開催方法について慎重に検討した上で、7月6日にホテル見学会を、実施(リアル)することができました。これは見学会に賛同頂き安全に行うことへの最大の努力をして頂いた見学先のメトロポリタンエドモントホテルの関係者様また実施に向け努力頂いた委員、講師の皆様のおかげと思っております。

今後の活動については、この二つの実施例を参考に会員の皆様の健康を第一に考え、交流を進めたいと考えております。

クロストーク報告

観光交流空間のまちづくり研究会長 清水 聡

観光交流空間のまちづくり研究会では、これまで「たびむすび」「トレンド探偵」「クロストーク」の3つの柱で活動を行ってききましたが、コロナ禍の中、WEBを利用した「クロストーク」に活動を絞り、これまでのように今我々が知りたいこと、会いたい人を招いてクロストークセミナーを開催しています。特にツーリズムが困難な状況にある中で、少しでもヒントが得られればと考えています。今年度の第1回は、「JTBコミュニケーションデザイン」の坂東氏をお招きして、「世界の人・モノ・コトが交流～MICEの世界～」と題してMICEとは？コロナはどんな影響があるの？未来のMICEは？など様々な取り組みとともに語って頂きました。第2回は多拠点居住を展開しているADDRESS代表の佐別当氏をお迎えして、「いつもの場所がいくつもある、という生き方」を予定しています。多拠点居住という暮らし方によって、居住される方、居住したまちにどんなことが起

こったか？をお話しいただきます。引き続き、観光やまちづくりに関する「今」を感じて、皆さんの仕事や知見、人脈に役立つような活動にしたいと考えています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

第50回国際ホテル・レストラン・ショーのお知らせ

ホテルズ実行委員長 浅野 一行

第50回 2022 国際ホテル・レストラン・ショーは令和4年2月15日(火)～18日(金)、会場は東京ビッグサイトで行われます。

新型コロナウイルス感染症については、まだまだ予断を許さない状況ではありますが、安全対策には万全を期したうえで、今年度も協会ブースを出展いたします。

今年度の総合テーマは、「ホスピタリティで解く観光施設の未来 ～SDGsを踏まえて～」。SDGsが目指す経済・社会・環境の調和を踏まえ、観光業界になじみの深い「ホスピタリティ」を切り口に、協会活動の発表内容を「もの」「社会」「自然」各々へのホスピタリティとして整理しました。当協会が目指す観光施設の明るい未来は、観光を取り巻く諸問題に対しホスピタリティを発揮することで築いていくことを説くものです。

展示テーマは、「インテリア」・「新UD客室研究」・「ホテル・旅館の耐震改修」・「エコ・小活動」・「観光施設のフェーズフリー」・「LINKED CITY」・「クロストーク」・「木づかい活動」・「水辺観光」の9つです。

当協会のCSV活動の一環として、研究成果を発表するとともに、会員各社がお持ちの技術・製品をPRしていただく場としてくださいますよう、協会ブースへの参加をお願いいたします。参加形式は3種類です。

1. テーマ展示参加 (参加費 8万円)

ブース展示+ショートセミナー+ゲートに社名表示

2. QRコード付ポスター参加 (参加費 4万円)

QRコード付ポスター掲示+ショートセミナー+ゲートに社名表示

3. CSV社名参加 (参加費 2万円)

ゲートに社名表示

ブース展示、センタープラザでのメインレクチャー、ショートセミナーは録画によりバーチャル展示会でも公開予定です。

全会員企業の参加を目指すCSV活動の主旨をご理解の上、3つのいずれかにお申込みいただきますよう、宜しくお願いいたします。

12/7 忘年セミナー:

良品計画会長 金井政明氏 登壇決定!

事業委員長 岡野正人

今年の忘年セミナーは、12月7日(火)に行われます。昨今のコロナ変異株感染拡大を鑑みて、今年もオンラインで行うこととなりました。今年は、「MUJI」ブランドでお馴染み(株)良品計画会長の金井政明様をお招きし、「良い商品を通して、社会を元気に!(仮)」をテーマにご

講演頂く予定です。長く続くこのコロナ禍にあって、日本を明るく、元気にするお話が期待できそうです。

12月7日火曜日 16:00 からです。乞うご期待!

残念!! 忘年交歓会は中止です!!

忘年交歓会につきましては、昨年は中止となり、今年こそ実施したいと前向きに考えてきましたが、安全最優先の考えから、不本意ながら、今年も交歓会は中止とします。それに代わるオンライン方式の交歓会等については、鋭意検討中ですので、改めてお知らせを配信予定です。

☆新入会員紹介☆

【賛助会員】株式会社建築画報社

(代表者)代表取締役 (担当者)

櫻井 ちると

草間 聖子

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-14-6

TEL: 03-3356-2568 FAX: 03-3356-1966

営業内容: 建築専門誌発刊

♥編集後記♥

新型コロナウイルスワクチンの接種率が高まった効果でしょうか、新たな感染者数が減少して9月30日まで延期されていた緊急事態宣言が解除されました。

重症者をはじめ入院患者数も減少傾向にあるもののまだまだ医療体制は厳しく、これからも感染防止対策は講じていかなければなりません。この解除が観光業界にとって効果的なプラスになりますように期待したいと思います。

長い間厳しい状況に置かれています観光業界に、私達も何かお手伝い出来ることはないか、全員で検討してまいりたいと存じます。 Y.K



撮影: 立石博巳